

令和7年度 第1回  
登録建築大工基幹技能者認定試験問題（60分）

受験番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分
2. 問題数 25題(四者択一方式)

注意事項

- ① 試験開始の合図があるまで、この問題冊子は開けないでください。
- ② 受験番号と氏名は、問題用紙および、解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。受験番号は、机上の3ケタの番号を記入ください。
- ③ 本冊子は表紙を含め11頁です。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などあった場合は、黙って手を上げて申し出てください。
- ④ 本冊子の持ち帰りは禁止です。解答用紙と共に提出してください。
- ⑤ 解答の方法は次のとおりです。
  - イ. 正解と思うものを(1～4)の中から1つだけ選び、解答用紙の解答欄にその番号または記号を記入してください。
  - ロ. 解答を訂正する場合は、訂正する解答を、消しゴムできれいに消すか二重線で取り消した後、新しい解答を記入してください。
- ⑥ 電子式卓上計算機、携帯電話、情報端末機、その他これと同様の機能を有するものは使用してはいけません。
- ⑦ 大工テキスト、共通テキスト、その他ノート類を持ち込むことはできません。
- ⑧ 試験開始後30分までの遅刻は受験することができます。ただし、解答できる時間はこの試験終了予定時刻までです。
- ⑨ 試験中質問があるときは、黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方に関する質問にはお答えできません。
- ⑩ 試験終了予定時刻前に解答が出来上がった場合は黙って手を上げて係員の指示に従ってください。ただし、試験開始から30分以内の場合は退出できないので、静かに着席しててください。
- ⑪ 係員の試験開始の合図で始めてください。

(一社)JBN・全国工務店協会

全国建設労働組合総連合

(一社)全国住宅産業地域活性化協議会

(一社)日本ツーバイフォー建築協会

(一社)日本木造住宅産業協会

(一社)日本ログハウス協会

(一社)プレハブ建築協会

2025年10月5～6日 神奈川県会場

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

問題1. 登録建築大工基幹技能者の役割について、最も**不適當**なものはどれか。

1. 現場の作業を効率的に行うための技術者の適切な配置、作業方法、作業手順等の構成をする。
2. 前工程・後工程に配慮した、他業者との連絡・調整をする。
3. 現場の実績と状況よりも、コストを重視した施工が最優先される。
4. 現場の状況に応じた施工方法の提案や調整も役割である。

問題2. 登録基幹技能者に必要な資質として最も**不適當**なものはどれか。

1. リーダーとして大切なことは信頼だが、それは約束を守ることから得られる。
2. 多くの理屈を言い立てるよりも、まず勇気を出して実行するほうが説得力は大きい。
3. 人を率いるには、冷徹で情け無用、厳しさに徹することが一番よい。
4. 仕事に信念を持ち、決断力を養ってこそ人はついてくる。

問題3. 建設キャリアアップシステムに関する次の記述について最も**不適當**なものはどれか。

1. 建設キャリアアップシステムとは、技能者の資格、社会保険加入状況、現場の就業履歴等を業界横断的に登録・蓄積する仕組みである。
2. 国土交通省告示において建設技能者とは、工事を適正に実施するため必要な技能を有する者で建設キャリアアップシステムに登録されたものを言う。
3. 技能者の能力評価基準に基づいて4段階の客観的なレベル分けを行い、登録基幹技能者は、レベル1に位置付けられた。
4. 登録基幹技能者は、工事の施工の技術上の管理をつかさどる主任技術者としての要件の1つとして認められている。

問題4. 建築基準法の改正による新2号建築物、新3号建築物の記述として最も不適当なものは次のうちどれか。

1. 平屋の200㎡の建築物は新3号建築物である。
2. 2階建ての150㎡の建築物は新2号建築物である。
3. 3階建ての180㎡の建築物は新2号建築物である。
4. 平屋の250㎡の建築物は新3号建築物である。

問題5. 登録基幹技能者に求められる能力で最も不適当なものはどれか。

1. 一般の技能者を指揮・監督できるだけの十分な作業能力を有する。
2. 出来上がりの点検、工事の是正が出来る能力を有する。
3. 未熟練の作業者をレベルアップさせるOJT教育を行う能力を有する。
4. 前後工程の技能を有し、他業種の管理能力も有する。

問題6. 登録基幹技能者に求められる役割について不適当なものはどれか。

1. 作業を効率的に行う為の作業手順等の構成。
2. 現場における生産性の向上・建設生産物の品質の確保。
3. 現場における技能者の指示、指導。
4. 他職の工程より、自分の工程を重視した現場管理。

問題7. 指導・教育に関する基本認識として次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1. OJTは、上司の仕事そのものである。片手間にとか暇があるから行うという考え方ではなく、仕事そのものであるという認識を持つことが大切である。
2. 上司の能力レベルから目標を定めるのではなく、部下の能力レベルに合わせた目標を立てることが大切である。往々にして育成ペースを急ぎすぎることもある。
3. OJTの実施が業績低下の言い訳になってはならない。仕事とOJTとの高いレベルでの調和が必要である。
4. OJTは、組織風土の伝統を伝えるものであるから、部下が組織外の実態、考え方に触れて気が散ってしまうことが無いようにしなければならない。

問題8. 登録基幹技能者に求められるOJTを進める上での「目標の設定」に関する次の記述のうち、最も**不適當**なものはどれか。

1. 日常の仕事を通じて行う指導・教育が可能な目標・項目であること。
2. 部下が意欲を持って取り組めるものであること。
3. 目標は進行状況によって変更可能な設定であること。
4. 目標は設定期間終了後に評価が可能であること。

問題9. リーダーに求められる資質に関する次の記述のうち最も**不適當**なものはどれか。

1. 実行よりも理屈をたてる事が大切。やみくもに率先して手を動かすことよりも、理屈を言い立てて相手を説得することに心がける。
2. 約束を守る。リーダーとして大切なことは「信頼」だが、その信頼は約束を守るところから得られる。
3. 健康である。健康でなければリーダーシップの発揮は難しい。
4. 統率力がある。人を率いるには、人間愛に勝るものはない。情けがなくて人はついてこない。厳しさの中でも暖かい配慮こそが肝要である。

問題10. 建設業法で規定されている契約に関する次の記述のうち最も**不適當**なものはどれか。

1. 契約は下請け工事の着工前に書面により行うことが必要。
2. 契約書面には建設業法で定める一定の事項を記載することが必要。
3. 注文書・請書による契約は一定の要件を満たすことが必要。
4. 契約は電子契約によることはできない。

問題1 1. 社会保険、労働保険についての次の記述の中で、その内容が最も**不適当**なものはどれか。

1. 健康保険と厚生年金保険については、法人の場合にはすべての事業所について、個人経営の場合でも常時5人以上の従業員を使用する限り、必ず加入手続きを行わなければならない。
2. 雇用保険については建設事業主の場合、個人経営か、法人かにかかわらず、労働者を1人でも雇用する限り、必ず加入手続きをとらなければならない。
3. 現場の予算が厳しい場合には、元請負人及び下請負人は見積時から法定福利費を必要経費として適正に確保する必要はない。
4. 元請負人は下請負人の見積りに法定福利費相当額が明示されているにもかかわらず、法定福利費相当額を一方的に削減したり、法定福利費を含めない金額で請負契約を締結し、「通常必要と認められる原価」に満たない金額になる場合には、違反になるおそれがある。

問題1 2. 建設雇用改善法（正式名称は、建設労働者の雇用の改善等に関する法律）が必要になった問題点で**不適当**なものはどれか。

1. 末端の下請企業において雇用関係の不明確者が多い。
2. 賃金不払い、労働災害等の発生が多い。
3. 労働者の福祉については増進しているが、利用者が少ない。
4. 基幹的な技能労働者が不足している。

問題1 3. 建設工事における施工管理において、主な内容を分類する管理で最も**不適当**なものはどれか。

1. 品質管理
2. 原価管理
3. 工程管理
4. 労務管理

問題14. 耐力壁の説明として最も**不適当**なものはどれか。

1. 耐力壁に構造用合板を使用する場合は、厚さ7.5mm以上で特類のものを使用する。
2. 耐力壁の構造要素は、筋交い等の斜材入りと面材張りの2種類ある。
3. 設計時の構造的な合理性を持った平面計画と構造材料（木材）の品質管理、現場での施工管理の徹底が重要である。
4. すべての建築物において構造計算が必要である。

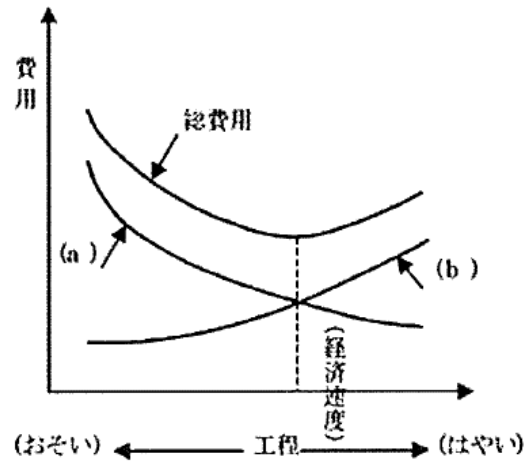
問題15. 建設工事における施工管理に関する内容で、最も**不適当**なものはどれか。

1. 原価管理とは工事に関わる原価を算出し実行予算を作成し、予算通りに実施しているかを管理する事である。
2. 施工計画は、品質、原価、工程、安全、環境保全などについて総合的に計画する。
3. 品質管理とは、発注者の要求に基づいて施工計画・施工図等を作成し建設物の品質を管理する事である。
4. 環境保全管理は、工事施工にあたり、第三者や作業員の安全を確保する為に行う管理である。

問題16. 建設工事の工程管理に関する記述で、最も**不適当**なものはどれか。

1. ネットワーク工程表の特徴として、作業手順、作業の相互関係がわかるため、正しく運用することは時間のムダやムラの防止につながる。
2. バーチャート工程表は、縦軸に作業、横軸に日数をバー（棒）の長さで表した工程表である。
3. 工程計画の立案にあたり、対象とする作業について、作業可能日数、1日当たりの平均施工量、施工速度を算定する。
4. 基本工程表（全体工程表）の立案に当たっては、最初に全ての工種別の施工組織体系を把握して計画する。

問題17. 工程管理の「工程と費用曲線の関係」において、図中の(a)、(b)に入る語句の組み合わせとして、最も**適当**なものは次のうちどれか。



- (a)            (b)
1. 直接費 — 間接費
  2. 直接費 — 仮設費
  3. 間接費 — 直接費
  4. 間接費 — 仮設費

問題18. 資材管理に関する内容で、最も**不適当**なものはどれか。

1. 資材管理の目的は、資材に合わせた保管管理をして工事を円滑に運営する事である。
2. 受入検査では、搬入された資材の数量のみ確認すればよい。
3. 保管材料の紛失・盗難、破損、腐食などの損害を受けないように保管場所を明確にする必要がある。
4. 断熱材の防湿には注意を払い、防湿層面にキズを付けないように心がける。

問題19. 文中の（ ）内に当てはまる最も**適当**な語句はどれか。

実行予算とは、具体的な（ ）を立て、その工事を実行するのに必要な費用を出来るだけ精密に予測・算出したもの。

1. 人員計画
2. 施工計画
3. 設備計画
4. 事業計画

問題20. 「住宅の品質確保の促進等に関する法律」で、新築住宅のある部分について瑕疵担保責任期間が10年に義務づけられたのは、「構造上主要な部分」と、どれか。

1. 雨水の浸入を防止する部分
2. 省エネルギーに関する部分
3. 防犯に関する部分
4. 日照に関する部分

問題21. 瑕疵担保責任に関する次の記述で最も**不適當**なものはどれか。

1. 瑕疵担保責任は引渡し時に発生し、改正前民法では、瑕疵担保期間は、コンクリート構造物の場合は原則10年と定められている。
2. 瑕疵とは物の使用価値または、交換価値を減少させる欠陥を有しないこと、あるいは保証された性質を有していることである。
3. 改正前民法では、瑕疵担保責任は仕事の目的物の瑕疵が注文者の供した材料の性質によって生じたものは適用しない。
4. 住宅については、住宅の品質確保の促進等に関する法律に基づき、構造耐力上主要な部分の瑕疵担保期間は10年間に義務付けされている。

問題22. 文中の〔 〕内に当てはまる語句として、最も**適当**なものは次のうちどれか。

「平成30年のわが国における建設工事全体の死亡災害を事故の型別に見ると、〔 〕によるものが最も多い。」

1. 墜落
2. 自動車等
3. 建設機械等
4. 倒壊

問題23. 建設工事の安全管理に関する記述で、最も**不適当**なものはどれか。

1. 3 m以上の高所から物体を投下するときは、投下設備を設け監視人を置く。
2. 高さ2 m以上の作業場所には、作業床を設ける。
3. 単管足場での建地・建柱間の積載荷重は、400 kg以下である。
4. 木造住宅の建方作業では、高さが5 m以上の場合でも、フルハーネス型の落下防止器具を用いる必要はない。

問題24. 墜落制止用器具の規格について、最も**不適当**なものはどれか。

1. 墜落制止用器具は、胴ベルト型(一本つり)、胴ベルト(U字つり)、ハーネス型(一本つり)の3種類が認められている。
2. 6.75 mを超える箇所においては墜落制止用器具として、フルハーネス型を選定する。
3. 墜落制止用器具は、着用者の体重及びその装備品の重量の合計に耐えるものでなければならない。
4. 墜落制止用器具のうち、フルハーネス型のもを用いて行う作業に係る業務を行う労働者は、安全衛生特別教育の受講が必要になる。

問題25. 住宅建設工事に係る次の記述のうち最も**不適當**なものはどれか。

1. バリアフリー性にとって住戸内に段差がないことが最も大切な要素なので、日常生活空間外の床として位置づけられている玄関の出入り口の段差もあってはならない。
2. 「省令準耐火構造」は、住宅金融支援機構の融資等に特有の構造で、省令で定める基準に適合する住宅を言う。
3. 木造住宅は、地面からの高さが1m以内の範囲にある材料が劣化を受けやすいため、それらの部分には何らかの防腐・防蟻措置を講ずる。
4. グラスウール、ロックウール等の透湿抵抗の小さい断熱材を使用する場合は、防湿材等を室内側に施工して防湿層を設ける。